

板橋区 平和祈念マップ



平和祈念像/北村西晋作

東京都板橋区

板橋区平和都市宣言

世界の恒久平和を実現することは、人類共通の願いである。しかしながら、現実には核軍拡競争が激化の様相を示し、人類の滅亡さえ危惧されることである。われわれは、世界で唯一の核被爆国として、また、日本国憲法の精神からも再び広島長崎の惨禍を絶対繰り返してはならないことを強く全世界の人々に訴え、世界平和実現のために積極的な役割を果たさなければならぬ。

板橋区及び板橋区民は、憲法に高く掲げられた恒久平和主義の理念に基づき、緑豊かな文化のまちづくりを目標とするとともに、非核三原則を堅持し、核兵器の廃絶を全世界に訴え平和都市とすることを宣言する。

昭和60年1月1日

軍工場関連

明治初期、現在の板橋区加賀には藩府の計画を継承して板橋火薬製造所が創られ、赤羽に大薬庫が置かれた。板橋火薬製造所は拡張と改組の末、終戦時は東京第二陸軍砲兵廠（二造）の本部と板橋工場になっていた。

日露戦争の際、板橋火薬製造所に近接して、火薬を砲弾や弾に加工する十餘銃包製造所（後の一造）や、東京兵器支廠の板橋兵器庫（後の東京兵器補給庫）などが置かれ、周辺は「軍都」化していった。なお同じ頃、板橋水雷火薬庫が板橋火薬製造所の北に隣接して設けられたが、徐々に火薬製造所の敷地となった。赤羽駅付近から引込線が敷かれた他、軍工場や建物間には独自の電気軌道線が敷かれており、その構内①やトンネルの側壁⑦が今も残っている。



①電気軌道構内

日中戦争開始後には、一造跡馬倉庫が連られ、東上線からの引込み線も敷設された。また、急増する工員のために寮も建設され、一造寮として近代台宿舎②、板橋宿舎⑦、大山宿舎②、橘寮宿舎②⑦、鎌正寮宿舎②⑧が、二造寮として興和寮宿舎④が区内に置かれた。こうした関係者を取り締まるための警兵隊もあり、当時の門柱②も残っている。



②陸軍消火栓



③陸軍用地標石

二造の跡地には、今もなお、当時の陸軍消火栓③、軍用地と民用地を区分する標石④、⑤、⑥）や塀④、銃庫を防ぐための土塁②等が一部残る。愛読辞⑧、理化学研究所④、野口研究所⑩、東京家政大学⑪、愛徳工専門学校⑫などは、軍工場時代の建物を今も利用している。



④土塁



①二造板橋工場225号屋など



①二造板橋工場36号屋



⑥加賀一丁目緑構緑地レンガパーク

火薬研究所と弾道管

現在の野口研究所の場所は、戦時中火薬研究所となっており、二造などで造られた弾薬の性能実験がおこなわれた。現在の構内には当時の火薬研究所⑩などいくつかの建物や土



⑩二造板橋工場23号屋（火薬研究所）など

空の遺構が残されているが、その中でも代表的なものは、弾道管と呼ばれる弾薬の性能を、実射し検査する十餘メートルの円筒であり⑨、区立加賀公園の方へと伸びている。弾道管は二本あり、そのうち一本は加賀公園内の日加賀沼江戸下敷敷内にあった砲山内部に向かっていて、その正確さ⑤が公園内に確認できる。



⑨弾道管



⑧弾道管構内

陸軍工学校分校記念碑

同校は造船の中堅技術者養成を目的とし、日露戦争後に砲兵工学校分校として設けられた。関係者は分校を「倭ヶ丘」と通称した。なお、同校敷地は終戦前には一造板橋宿舎となり、戦後板橋第五中学校となった。加賀公園内にその記念碑⑬がある。

庄磨機圧輪記念碑

幕末に沢太郎左衛門が欧州へ留学し、技術とともに日本に輸入した庄磨機の部品で作られた記念碑⑭。黒色火薬の製造に用いられていた。水車⑮はこうした庄磨機の動力として使われた水車を回すために用いられた。



⑬庄磨機圧輪記念碑

明治35年爆発事故招魂碑

火薬工場火災の際、消火活動中に爆発が起こり殉職した職員と職工を慰霊するもの⑮。



⑮明治35年爆発事故招魂碑

区域の防空体制

昭和19年12月に、高射砲第一師団が編成され、東京都北部には高射砲第一六聯隊が置かれた。区内には前野高射砲陣地⑯と、赤塚高射砲陣地⑰があり、それぞれ6門の高射砲が備えられていた。また、小豆沢⑱と新河岸⑲には照空灯があり、夜間上空の敵機を照らし出した。加えて四葉には敵機の飛行音を感知する聴音機⑲が置かれた。なお、茂呂には電波小隊陣地があり、電波探知機（レーダー）が設置されていた⑲。成増八丁原には第一六聯隊の本部⑲が置かれていた。

平和祈念像

板橋区平和都市宣言告示後の昭和62年、区役所新庁舎落成に併せて設置された。長崎平和祈念像を作成した北村西望の遺作⑲。



⑲平和祈念像

金井窪駅

周辺の都市化に伴い昭和6年開業するが、空襲で焼失し休業となる。東上線では他にも被災休業した駅は多いが、戦後復旧せず廃止になったのは金井窪駅だけだった⑲。

空襲犠牲者供養の地蔵

昭和20年4月13日、東京陸軍造兵廠を目標としたB29による空襲があり、区内では板橋・志村方面が大きな被害を

受け、区民約4万5千人が被災した。旧板橋町では、区役所・養育院・金井窪駅などが焼失した。この八箇の地蔵は、地蔵が安置されている大山金井町で爆弾の直撃を受けて亡くなった9人の人びとを供養するために建てられたもので、平成7年度に板橋区登録記念物となっている⑲。



⑲平和の灯でニュメント

横穴式防空壕

区内には、武蔵野台地の崖地が展開しており、その地質が粘土層の赤土（関東ローム）で粘着力が強いことから、支保工なしで築壁の横穴式防空壕を掘ることが可能となっていた。そのなかには、総延長が100mを超える大規模な防空壕もあり、多数の人員を相当時間待避させ、必需品を貯蔵するように計画されていた。区内には、100mを超えるものとして、向原⑳と志村㉑のもの確認されるが、それ以下の規模のものを含め、終戦後から埋め戻し事業が行われて

空襲犠牲者供養の地蔵（平安地蔵）

昭和20年6月10日の空襲は、270名余が亡くなり、約2,400名が被災した。そして、この時の死者数は区内最大のものとなっている。南常盤台の天祖神社には、この頃に爆弾の破片によって傷ついた狛犬㉒がある。この空襲は中島飛行機武蔵製作所を第一目標としていたB29爆撃機が、目標を確認できず、そのかわりに上板橋地域を襲撃したものと想定される。平安地蔵は被害者の三回忌にあたり、地元の人々が二体の地蔵を造立したことに始まる。平成7年度に板橋区登録記念物となっている㉒。



⑲爆弾した狛犬



⑲空襲犠牲者供養の地蔵（平安地蔵）

防空緑地

空襲による延焼を防ぐため昭和16年度に策定、翌年に着工された。後に城北中央公園となった㉓。

平和の灯モニュメント

広島の高橋死亡者慰霊碑を模したもので、平成4年、広島市の「平和の灯」と長崎市の「願いの火」を合わせた灯火が点火された。



⑲平和の灯でニュメント

民間軍需工場

関東大震災後の都市計画で危険物を扱う工場の建築が認められていた志村地区には、特に海州事変勃発（昭和6年）後工場の進出が続いた。また、東京兵器支廠（補給庫）は軍需品納入に際しての検査を行っており、近接する志村地区はその点でも軍需生産に好都合だった。戦時体制が強化される中で、こうした工場の多くは軍の管理工場や監督工場に指定された。昭和19年には、運動需要に応えるため都府が下板橋から志村坂上まで延伸している㉔。

イトワキ株式会社本社工場跡 想い出の樹

昭和14年、多くの死者を出したセルロイド工場爆発事故の際、被災したイトワキ株式会社が焼け残った樹を、再建した本社工場に移植したものを、由来を記した銘文がある㉕。



⑲イトワキ株式会社本社工場跡 想い出の樹

一造・二造住宅地

当地域は、日本住宅営団が、造船廠の職員のために造成した住宅地である。徳丸三丁目8番付近㉖と徳丸四丁目24番付近㉗、赤塚一丁目3番付近㉘に所在していた。

平和観音

当家は、赤塚の成田山不動大尊境内の平和観音堂に安置されている。昭和27年5月に第二次世界大戦の終結と国交回復のために、日本と日連合国48ヶ国との間に結ばれた、通称サンフランシスコ講和条約の発効を記念したもので、平和を願って造立された観音像である㉙。

加賀五自治会（肥田一穂氏寄贈）文書

戦後二造跡に入居した企業などが結成した五自治会の活動記録。米軍による再稼取り止運動や、資料をめぐっての裁判など旧軍用地の戦後をつぶさに記録する㉚。区立郷土資料館所蔵。区の登録有形文化財。

成増陸軍飛行場

米軍機の来襲から東京を防衛するため昭和18年に設置。戦後は米軍特務隊向け住宅グラントハイツとなる。その建設の資料遺構に使われたのが、一造跡馬倉庫の引込線を延伸した箇志（ケシー）線である。



空襲により炎上する志村国民学校（「板橋の平和」より）

板橋区平和祈念マップ

板橋区上空襲

板橋区への本格的な空襲は、昭和19年12月3日の空襲以降、記録で確認する限り19回を数える。板橋地域や志村地域は、東京第二陸軍造兵廠や軍需工場が米軍の重要な攻撃目標であったため、昭和20年1月27日、4月13日、5月25日、8月10日と4回の空襲を受けている。その中で4月13日の空襲は、志村から板橋にかけて広い地域が空襲を受けて、板橋区最大の被害が出た。また、板橋区最大の死者が出た6月10日の空襲は、三鷹の中島飛行機武蔵製作所を目標として飛来したB29の一部が、帰途の途中弾射したものである。なお、首都防衛の要であった成増飛行場（現光が丘）も4回の空襲を受けたが、2月16日と翌17日の空襲は、隣真鳥への上陸作戦を控え、関東各地の飛行場を攻撃して日本側の反撃を印くため太平洋上の空母から飛来した艦上戦闘機による攻撃で、7月8日の空襲はその真鳥から飛来した戦闘機による攻撃。



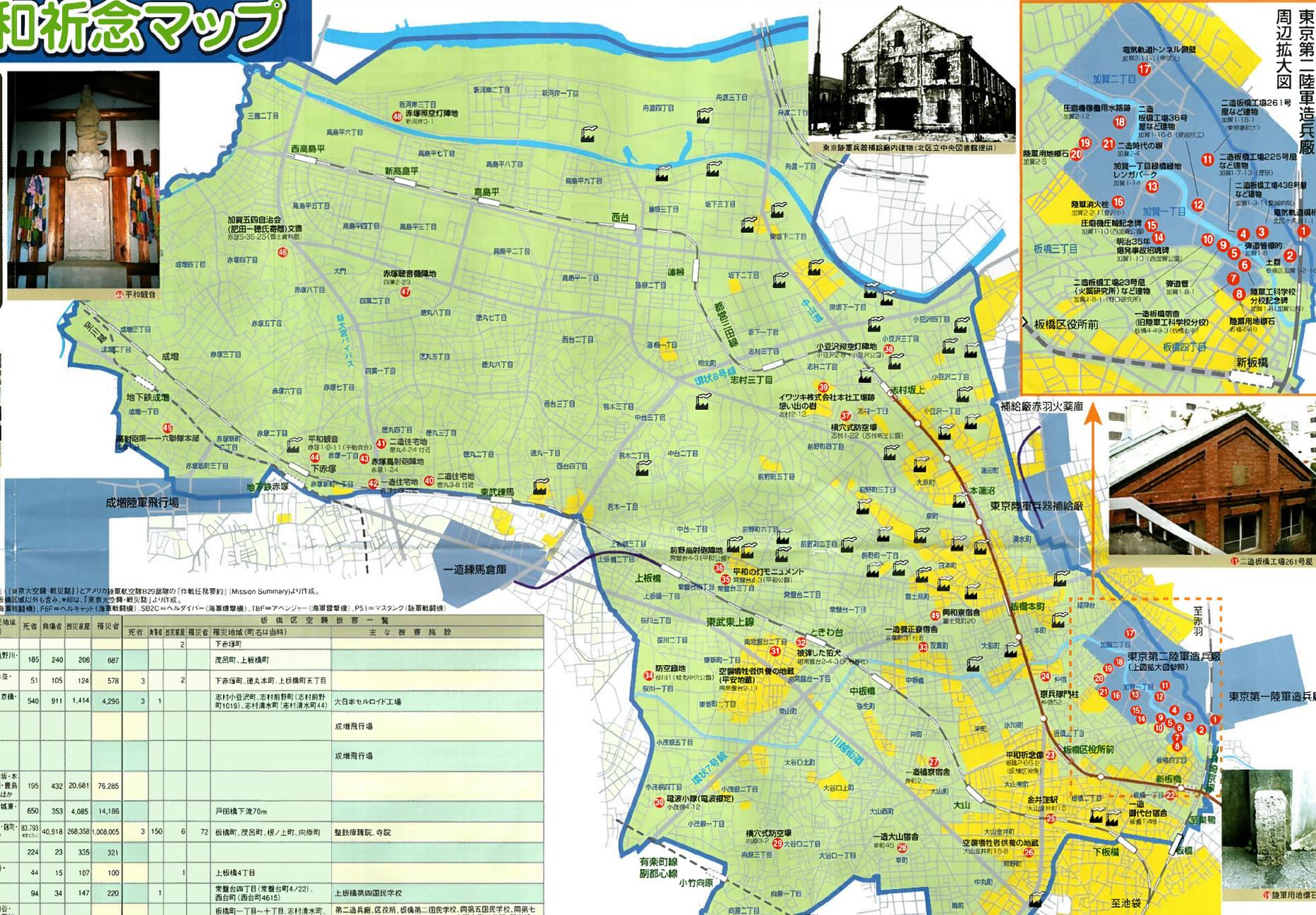
成増陸軍飛行場（「板橋の平和」より）

●「戦災被災地域調査 帝都近辺団」「戦災被災団」（東京都戦災協）「戦災被災団」が現地調査を基に作成した。なお、戦災被災団によって一時的に消失した被害は不明である。
 ●加賀五四自治会（肥田一徳氏寄贈）文書 東京都外部文書「日本空襲史」
 ●東京空襲被害調査委員会「空襲被害調査報告書」
 ●東京空襲被害調査委員会「空襲被害調査報告書」
 ●東京空襲被害調査委員会「空襲被害調査報告書」

空襲被害一覧

年月日	空襲時間	空襲機数	爆弾数(トン)	目標(米軍)	死者	負傷者	被災家数	罹災者	罹災地域(町名は当時)	罹災状況	主な被害施設
17-4-13	15:40	16(B25)							下赤塚町	2	
19-12-3	15:50-15:53	86(B29)		中島飛行機武蔵製作所、東京陸軍造兵廠	185	240	206	687	成増町、上板橋町		
19-12-7	12:16-14:15	72(B29)	40.3*	63.3*	51	105	124	578	板橋・中野・杉並・王子ほか	3	
20-1-27	14:00-15:10	76(B29)	182*		540	911	1,414	4,296	志村小豆沢町、志村前野町(志村清水町4)	3	大日本セロイド工場
20-2-15	12:30-16:00	約450(F6F、F4U、SB2C、TBF)							成増飛行場		
20-2-17	6:42-12:40	約590(F6F、F4U、SB2C、TBF)							成増飛行場		
20-2-25	14:15-16:30	229(B29)	42.3	411.4	195	432	20,561	76,285	原谷・野町・赤塚・本所・城東・豊島・豊島・滝野川・板橋ほか		
20-3-4	8:40-9:56	192(B29)	—	532*	650	353	4,085	14,186	豊島・滝野川・城東・向島ほか		戸田橋下流70m
20-3-10	0:15-2:35	325(B29)	6,700*	1,665	83,793	40,918	268,358	1,008,005	板橋町、茂吉町、根ノ上町、向原町	3	150
20-4-2		122(B29)	101,834		224	23	325	321	板橋・杉並・三多ほか		
20-4-7	9:54-10:30	107(B29)	494.7		44	15	107	100	板橋・世田谷・関町ほか	1	
20-4-12	9:20-11:55	114(B29)	93(P51)	556	94	34	147	220	杉並・板橋・荒川ほか	1	
20-4-13	23:00-2:22	348(B29)	81.9	2037.7	2,459	4,746	200,277	666,986	板橋町一丁目～十丁目、志村清水町、志村前野町、志村小豆沢町、志村清水町	232	177
20-5-24	1:36-3:50	558(B29)	—	3645.7	762	4,130	64,487	238,376	板橋町十丁目、徳丸本町	1	3
20-5-25	22:22-1:00	498(B29)	3,262		3,651	17,899	165,545	620,125	板橋町三丁目～六丁目	4	3
20-6-10	7:04-9:40	124(B29)	405*	2	269	196	615	2,477	板橋三丁目～五丁目、小山町、上板橋町、根ノ上町	269	155
20-7-8	12:10-13:42	約150(P51)			1	6	40		成増町(成増町440)・上赤塚町、下赤塚町	1	6
20-7-10	5:17-7:25	約300(F6F、F4U)			1	8			下赤塚町(下赤塚567)・成増町	1	8
20-7-28	10:20-13:15	118(B29)	1,840(P51)	1,840(上)	1	8			志村中台町(志村中台町318)	1	8
20-8-10	17:39-19:50	76(B29)	333.5		195	292	1,662	9,302	板橋・王子・滝野川ほか	76	179
合計		11,505	524	12,474	57,237	124,932	1,083	61,800		3,602	597

●(赤坂町南本郷情報科)「板橋区史」
 ●「東京空襲被害調査委員会」昭和23年7月東京空襲被害調査委員会「東京空襲被害調査報告書」
 ●「東京空襲被害調査委員会」昭和24年7月東京空襲被害調査委員会「東京空襲被害調査報告書」
 ●「東京空襲被害調査委員会」昭和24年7月東京空襲被害調査委員会「東京空襲被害調査報告書」



東京陸軍兵器補給所内建物(北区立中央図書館提供)



東京第二陸軍造兵廠 周辺拡大図



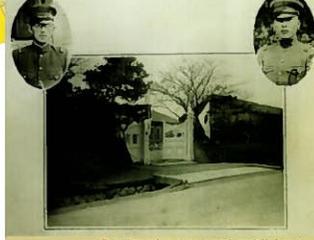
二造板橋工場261号長



二造板橋工場内建物(加賀五四自治会文書)



板橋火薬製造所(後の二造本部)



(北区行政資料センター提供)



陸軍用地横石



陸軍工学校分校(加賀五四自治会文書)